

「地域医療支援病院」を目指して

当院は長年、生命にかかわるがん医療、急な疾病や事故に対する救急医療、お産や小児に対する医療、新型コロナウイルスなどの感染症や突然の災害に対する医療といった公共性の高い急性期医療に取り組み、中和地域の中核病院として地域医療を守ってきました。しかし、昨今の医師不足のため、すべての医療ニーズには十分応えられない状況が続いています。これは当院に限ったことではなく、全国の公立病院が抱える大きな課題です。この現状に対し、国は従来型の一つの病院で完結する医療から一定の地域内で完結する医療へ体制を転換しようとしています。

そのためには地域の中核となる病院が、地域内の他の医療機関や介護福祉施設などと連携し、支援することが必要です。具体的には市立病院とかかりつけ医が連携する二人主治医制を推進していきます。かかりつけ医が日常的な健康管理や一般的な外来診療を行い、市立病院では精密検査や専門的な治療、手術などの急性期医療を担います。当院の医療設備や技術を必要とする急性期の患者さんに対して十分な医療資源を提供できる体制、緊急時に速やかに対応できる体制を整えることで、今後さらに地域医療に貢献できます。また、医療機関以外の介護、在宅療養、行政機関とも日頃から密に連携し、地域内の患者さんの健康管理に努めます。

当院は「いざという時に頼れる病院」を目指します。国はこのような役割を担う病院を「地域医療支援病院」として位置づけ、一定の要件を満たすことを条件に都道府県知事が承認します。しかし、県内に5つある医療圏の中で、当院が属する中和医療圏にはまだ「地域医療支援病院」が存在しません。令和4年度を迎え、奈良県立医科大学のご支援により内科を中心とした医師の増員が見込まれ、医師不足解消の目処がたちました。市立病院は、「地域医療支援病院」を目指して、地域の安心安全な医療の提供に取り組めます。

地域医療連携センター 副院長 向川 智英